

女子団体決勝・生光学園対宇和島東 大将戦をものにし、チームの優勝に貢献した生光学園の牛方(右) 高松市総合体育館



# 生光学園女子 連覇

## 柔道

▽決勝トナメント個人  
 生光学園 2-0 宇和島東  
 ○木村 健 差山 下  
 優勝 生光学園は大会連続3度目の優勝

▽決勝トナメント団体  
 生光学園 2-0 宇和島東  
 ○木村 健 差山 下  
 優勝 生光学園は大会連続3度目の優勝

▽決勝トナメント団体  
 生光学園 2-0 宇和島東  
 ○木村 健 差山 下  
 優勝 生光学園は大会連続3度目の優勝

## 全戦一人も敗れず圧倒

生光学園女子は連覇に、決勝トナメントを通じて一人も敗れず圧倒した。各校から徹底マークされた中で、3連覇に、牛方(右)は「試合は満足できないが、結果を返したのが良かった」と振り返った。

宇和島東との決勝、1勝1分けで迎えた大将戦に臨んだ牛方は、相手と組んでこない中でも粘り強くチャンスをつかぎ、開始約1分半、素早く攻めて横四方面を決め、チームの勝利を手繰り寄せた。

先鋒(せんほう)の3年木村は、攻めてこない相手に「感情的になった」と言う。それでも実際には冷静に相手の動きを見極めて戦い、指導で「備差」による勝利を収めた。次鋒の2年杉本は、手足の長い相手に得意の内股が決まらなかったものの、足技で期して大外刈を繰り出す攻めの姿勢を貫き、引き分けに持ち込んだ。

昔の全国高校選手権位級の強豪伊田監督からは「団体選手権は全国総体に比べて通過点、いかに冷静にだわって優勝するか」と言われていた。その言葉を胸に刻んだ3人は圧勝にも反省も、杉本は「もともと出ていれば決勝も勝った。メンタルを鍛える必要がある」と話す。

善を上回る日本一を目指すインターハイでも奮闘される3人も、もってこいで先任に任せていこうと積極性をチームに掲げた。(木村 健明)